

## 令和4年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

## 1 開催日時等

令和5年1月23日（月曜日）午後2時から午後5時まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター本館6階会議室

## 2 議事及び報告事項

## (1) 議事：事例の検討について

令和4年11月30日までに都医師会、都薬剤師会を通じて収集した46事例について検討を行った。46事例中には、2製品を同時に摂取していた事例が2件、9製品を同時に摂取していた事例が1件あり、症例数としては36であった。

検討の結果、緊急調査等が必要な事例はなかった。また、11事例（皮膚症状4、消化器症状4、胸が張る2、鼻血1）に関して、都医師会、都薬剤師会へ情報提供し、更なる情報収集について協力を依頼することとなった。

なお、20事例（消化器症状、皮膚症状、発熱、足の痛み、心拍上昇・下降）は、再調査によっても摂取状況・転帰等が不明であり詳細な検討が困難であること、14事例（消化器症状、肝機能障害、血液検査値異常、血圧上昇、腎機能低下）は、よく知られた非重篤な事例であり、患者の体質等製品以外の影響も考えられることから、蓄積していくという結論になり、1事例（肝機能障害）については、再検査の結果を入手後に再検討することとなった。

また、①既往症のある人や服薬している人が健康食品を摂取する際は、十分気を付けること、②健康食品を摂取して体調不良となった場合は、すぐに摂取を中止すること、また体調変化について医師・薬剤師等に相談すること、③妊娠中に健康食品を利用する際は、利用前に医師に相談すること、との意見が挙げられた。

あわせて、医師の関与が有効であった事例について情報提供すべきとの意見が挙げられた。

## (2) 報告：東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼について

（令和4年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

令和4年度第1回当専門委員会での検討結果、情報提供すべきとされた事項（既往歴のある人や薬を飲んでいる人の健康食品利用、健康食品を摂取して体調不良となった場合の注意点、健康食品の利用記録）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼したことを報告した旨、事務局から報告された。

## (3) 報告：収集事例の集計結果について

平成18年7月1日から令和4年11月30日までに収集した事例の集計結果について、下表（抜粋）のとおり、事務局から報告された。

健康食品との関連が疑われる健康被害事例の集計結果（抜粋）

ア 情報共有シート提供元の内訳

提供元	報告数（件）	患者数（人）
医師会	265	184
薬剤師会	220	206
東京都消費生活総合消費者センター※	3	3
合計	488	393

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成 30 年 7 月から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	便秘	婦人科疾患改善	強精	血流改善	栄養補給	腰痛・関節痛	血圧改善	血糖値改善	肝機能改善	美肌	免疫賦活	健康維持・健康増進	病気の改善	病気の予防	美容	バスタップ	筋肉増強	その他・不明	年代別患者数
10代	2				1	2													2	7
20代	20		1	1		2					2		1	4		4	3		18	56
30代	18	1	1		1	5					5		4	1		7			19	62
40代	16	2	4	1	1	3	2	1	1		1		6	3	1	5			19	66
50代	10	4	1		1	26	13	1	1	1	2	2	8	2	2	4		1	33	112
60代	9	5	1	1	3	13	20	4			1	2	15	7	1	1		2	34	119
70代以上	10	7	1		5	25	45	4	5	2	1		14	8	1	3		2	65	198
不明・記載なし	2	1				4			1						1	1			6	16
合計	87	20	9	3	12	80	80	10	8	3	12	4	48	25	6	25	3	5	196	636

- ・ダイエット・美容は 20 代から 40 代、栄養補給は 50 代から 70 代以上、腰痛・関節痛も 50 代から 70 代以上、健康維持・健康増進は 60 代と 70 代以上が多い。
- ・年齢別では、50 代から 70 代以上の利用が多い。

ウ 性別割合

性別	患者数(人)	構成比
女性	287	73.0%
男性	101	25.7%
記載なし	5	1.3%

・女性は男性の約3倍であった。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数(人)	構成比
あり	249	63.4%
なし	87	22.1%
不明・記載なし	57	14.5%
合計	393	100.0%

・医師の診察がない（又は不明）患者が約4割弱であった。

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数(人)	構成比
有り	237	60.3%
無し	110	28.0%
不明・記載なし	46	11.7%
合計	393	100.0%

・基礎疾患のある人の事例は約6割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数(人)	構成比
有り	182	76.8%
無し	14	5.9%
記載なし	41	17.3%
合計	237	100.0%

(母数：基礎疾患のある237人)

・基礎疾患のある人の約8割弱が、治療薬と健康食品とを併用していた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	127
胃痛・胃部不快感・吐気	76
肝機能障害、肝機能検査値異常	46
血液検査異常(肝機能以外)	43
下痢・軟便	42
便秘	13
めまい・ふらつき	6
倦怠感	6
出血、出血傾向	7
頭痛	6
下腹部痛、子宮出血	2
その他	57
合計	431

（母数：371人）

- ・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「肝機能障害・肝機能検査値異常」「血液検査異常(肝機能以外)」「下痢・軟便」であった。
- ・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会  
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿  
(五十音順・敬称略)

令和4年6月現在

No.	氏名	所属
1	梅垣 敬三 (座長)	昭和女子大学 食健康科学部 食安全マネジメント学科 教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	千葉 剛	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
4	町田 奈緒子	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科（呼吸器）教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室 室長